

■科目名			
発達障害医学 medical aspects of developmental disorders			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	専修専門科目	特別支援教育	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	4期		後
■担当教員			
橋口 知			
■代表教員名及び連絡先等			
橋口 知（健康教育） tomo@edu.kagoshima-u.ac.jp			
■オフィスアワー			
水曜日12時10分～12時40分（生涯教育総合研究棟2階 橋口研究室）。他の時間を希望する場合はメールやmanabaの個別指導で時間調整の連絡。manabaの個別指導やメールによる質問は、随時受付ける。			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
この授業では、発達障害について、生物学的背景を基盤とする医学領域の視点と医療に関する基礎的知識を習得し、発達障害児への理解を深めることを目的とする。 授業内容としては、脳を含むからだところの構造・機能の発達、発達障害全般の生物学的な基礎的知識、各発達障害の医学的理解と医療的支援の現状を取り上げる。 授業は、配付資料による講義を中心に、適宜、学習者の課題発表を加えた形式で行う。			
■授業の到達目標及びテーマ			
1 発達及び発達障害の医学的概念を説明することができる。 2 各発達障害の生物学的な面を含む特徴を述べるすることができる。 3 各発達障害に対する医療的な面を含む支援方法を挙げるすることができる。			
■授業計画			
☆全15回の授業を対面形式で実施する。 1 発達の概念 2 発達障害の医学的概念(ICD-10、DSM-5) 3 生物学的な発達（脳を含む身体の構造と機能） 4 知的障害の医学的理解と医療的支援 5 運動発達障害の医学的理解と医療的支援 6 視覚障害の医学的理解と医療的支援 7 聴覚障害の医学的理解と医療的支援 8 言語障害の医学的理解と医療的支援 9 情緒障害の医学的理解と医療的支援 10 自閉スペクトラム症の医学的理解と医療的支援1 11 自閉スペクトラム症の医学的理解と医療的支援2 12 LD・DCDの医学的理解と医療的支援 13 ADHD、情緒障害の医学的理解と医療的支援 14 発達障害の今日的な話題 15 社会資源(発達障害者支援)、確認試験			
■授業外学習（予習・復習）			
予習：次回のテーマについて、自分の理解度や把握度に応じて知識の補充及び整理を行うこと。（学習に係る標準時間：各回2時間） 復習：基本的事項を確実に習得できるように、自宅で反復学習すること。（学習に係る標準時間：各回2時間）			
■受講要件			
■成績の評価基準			
授業中の活動状況(20%)、課題発表を含む複数回の課題レポート(50%)、確認試験(30%)により、総合的に評価を行う。 授業中の活動状況は、自己演習への取り組み状況や小レポートの内容を評価する。 課題発表は、内容の妥当性・適切性・発表のわかりやすさの程度を評価する。			

課題レポートは、テーマに対する問題点の設定の適切性や考察の独自性・妥当性を評価する。

確認試験は、授業内容の習熟度及び授業の到達目標への達成度を評価する。

原則として、出席が全授業回数の3分の2以上の場合、評価対象とする。

ただし、発表の実施と確認試験の受験を評価対象の条件とする。

■教科書・参考書

教育支援資料 ～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～ 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 平成25年10月 第3編 障害の状況等に応じた教育的対応（授業進行に応じて配付予定。文部科学省HPからダウンロード可能）。参考書は随時紹介する。

■教師としての資質能力に関するチェック項目

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており、それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

16. 情報収集力，分析力，活用力

【D構想力，展開力，評価力等】情報を収集し，整理・分析することを通して，その情報を活用していくことができる

18. 各教科内容の基盤的知識の理解及び技能の習得

【E教科領域等の内容理解】教科内容の背景となる学問領域について，基盤的な知識や技能を身に付けている

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

プレゼンテーション；

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

■実務経験のある教員による実践的授業

担当教員は精神科医師として継続して診療に従事しているため、具体性のある事例提示をもとに医学・医療の情報や支援について理解を深める授業内容の構成としている。

■その他

授業形態(対面・遠隔)については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により、変更する場合がある。